

◎ 所得に対する租税に関する二重課税の回避及び脱税の防止のための  
の日本国とフィンランド共和国との間の条約

(略称) フィンランドとの租税(所得)条約

昭和四十七年 二月二十九日 ヘルシンキで署名  
昭和四十七年 五月二十三日 国会承認  
昭和四十七年十一月二十八日 批准の閣議決定  
昭和四十七年十一月三十日 東京で批准書交換  
昭和四十七年十二月十二日 公布及び告示  
(条約第十号)  
昭和四十七年十二月三十日 効力発生

目次

ページ

前文	一六一
第一条 人的範囲	一六一
第二条 対象となる租税	一六一
第三条 定義	一六二
フィンランドとの租税(所得)条約	

フィンランドとの租税（所得）条約

第四条	締約国の居住者	一六四
第五条	恒久的施設	一六四
第六条	不動産に係る所得	一六六
第七条	企業又は恒久的施設の利得	一六七
第八条	船舶又は航空機に係る利得	一六九
第九条	特殊関係企業に係る利得	一六九
第十条	配当	一七〇
第十一条	利子	一七二
第十二条	使用料	一七三
第十三条	譲渡収益	一七五
第十四条	自由職業の所得	一七六
第十五条	勤務に対する報酬	一七六
第十六条	役員報酬	一七七
第十七条	芸能人等の所得	一七八
第十八条	退職年金	一七八
第十九条	公務遂行に係る報酬	一七八
第二十条	教育又は研究に係る報酬	一七九
第二十一条	学生又は事業修習者への給付金	一八〇

第二十二條	その他の所得	一八〇
第二十三條	二重課税の排除方法	一八一
第二十四條	内国民待遇	一八二
第二十五條	不服申立て及び両国当局間の協議	一八三
第二十六條	情報交換	一八四
第二十七條	徴収共助	一八五
第二十八條	外交官及び領事官の特権	一八五
第二十九條	批准、効力発生及び適用の開始	一八五
第三十條	条約の終了及び適用の終了時期	一八六
末文		一八六

○所得に対する租税に関する二重課税の回避及び脱税の防止のため

の日本国とフィンランド共和国との間の条約に関する交換公文	一八八
フィンランド側書簡	一八八
条約第四条2の規定の運用に関する了解	一八八
日本側書簡	一八九

所得に対する租税に関する二重課税の回避及び脱税の防止のための日本国とフィンランド共和国との間の条約

日本国及びフィンランド共和国は、所得に対する租税に関し、二重課税を回避し及び脱税を防止するための条約を締結することを希望して、次のとおり協定した。

第一条

この条約は、一方又は双方の締約国の居住者である者に適用する。

第二条

対象となる租税

1 この条約の対象である租税は、次のものとする。

- (a) 日本国においては、
  - (i) 所得税
  - (ii) 法人税
  - (iii) 住民税
- (b) (以下「日本の租税」という。)
  - (i) フィンランドにおいては、  
国税である所得税
  - (ii) 地方税である所得税
  - (iii) 教会税

フィンランドとの租税(所得)条約

CONVENTION BETWEEN JAPAN AND THE REPUBLIC OF FINLAND FOR THE AVOIDANCE OF DOUBLE TAXATION AND THE PREVENTION OF FISCAL EVASION WITH RESPECT TO TAXES ON INCOME

Japan and the Republic of Finland,  
Desiring to conclude a Convention for the avoidance of double taxation and the prevention of fiscal evasion with respect to taxes on income,  
Have agreed as follows:

Article 1

This Convention shall apply to persons who are residents of one or both of the Contracting States.

Article 2

1. The taxes which are the subject of this Convention are:

- (a) In Japan:
  - (i) the income tax;
  - (ii) the corporation tax; and
  - (iii) the local inhabitant taxes (hereinafter referred to as "Japanese tax").
- (b) In Finland:
  - (i) the State income tax;
  - (ii) the communal income tax;
  - (iii) the church tax; and

(iv) 船員税

(以下「フィンランドの租税」という。)

2 この条約は、1に掲げる租税に加えて又はこれに代わつてその後課される租税であつて1に掲げる租税と同一の又はこれと実質的に類似するものについても、また、適用する。両締約国の権限のある当局は、それぞれの国の税法について行なわれた改正を、その改正後の妥当な期間内に、相互に通ずる。

3 この条約は、第八条2の規定に関する場合に限り、同条2の租税についても、また、適用する。

第三条

1 この条約において、文脈により別に解釈すべき場合を除くほか、

- (a) 「日本国」とは、地理的意味で用いる場合には、日本国の租税に関する法令が施行されているすべての領域をいう。
- (b) 「フィンランド」とは、フィンランド共和国をいう。
- (c) 「一方の締約国」及び「他方の締約国」とは、文脈により、日本国又はフィンランドをいう。
- (d) 「租税」とは、文脈により、日本国の租税又はフィンランドの租税をいう。
- (e) 「者」とは、個人、法人及び法人以外の団体をいう。

(iv) the sailors' tax  
(hereinafter referred to as "Finnish tax").

2. This Convention shall also apply to any identical or substantially similar taxes which are subsequently imposed in addition to, or in place of, those referred to in the preceding paragraph. The competent authorities of the Contracting States shall notify to each other any changes which have been made in their respective taxation laws within a reasonable period of time after such changes.

3. With respect to paragraph 2 of Article 8 only, this Convention shall also apply to the taxes referred to in that paragraph.

Article 3

1. In this Convention, unless the context otherwise requires:

- (a) the term "Japan", when used in a geographical sense, means all the territory in which the laws relating to Japanese tax are in force;
- (b) the term "Finland" means the Republic of Finland;
- (c) the terms "a Contracting State" and "the other Contracting State" mean Japan or Finland, as the context requires;
- (d) the term "tax" means Japanese tax or Finnish tax, as the context requires;
- (e) the term "person" means an individual, a company and any other body of persons;

- (f) 「法人」とは、法人格を有する団体又は租税に關し法人格を有する団体として取り扱われる団体をいう。
- (g) 「一方の締約国の企業」及び「他方の締約国の企業」とは、それぞれ一方の締約国の居住者が営む企業及び他方の締約国の居住者が営む企業をいう。
- (h) 「国民」とは、
- (i) 日本国については、日本国の国籍を有するすべての個人並びに日本国の法令に基づいて設立され又は組織されたすべての法人及び法人格を有しないが日本国の租税に關し日本国の法令に基づいて設立され又は組織された法人として取り扱われるすべての団体をいう。
- (ii) フィンランドについては、フィンランドの国籍を有するすべての個人並びにフィンランドにおいて施行されている法令によつてその地位を与えられたすべての法人、組合及び団体をいう。
- (i) 「権限のある当局」とは、日本国については、大蔵大臣又は権限を与えられたその代理者をいい、フィンランドについては、大蔵省又は権限を与えられたその代理者をいう。
- 2 一方の締約国におけるこの条約の適用上、この条約において特に定義されていない用語は、文脈により別に解釈すべき場合を除くほか、この条約の対象である租税に關する当該一方の締約国の法令上有する意義を有するものとする。

- (f) the term "company" means any body corporate or any entity which is treated as a body corporate for tax purposes;
- (g) the terms "enterprise of a Contracting State" and "enterprise of the other Contracting State" mean respectively an enterprise carried on by a resident of a Contracting State and an enterprise carried on by a resident of the other Contracting State;
- (h) the term "nationals" means:
- (i) in respect of Japan: all individuals possessing the nationality of Japan and all juridical persons created or organised under the laws of Japan and all organisations without juridical personality treated for the purposes of Japanese tax as juridical persons created or organised under the laws of Japan;
- (ii) in respect of Finland: all individuals possessing the nationality of Finland, and all legal persons, partnerships and associations deriving their status as such from the laws in force in Finland;
- (i) the term "competent authority" means, in the case of Japan, the Minister of Finance or his authorised representative, and, in the case of Finland, the Ministry of Finance or its authorised representative.
2. As regards the application of this Convention in a Contracting State any term not otherwise defined in this Convention shall, unless the context otherwise requires, have the meaning which it has under the laws of that Contracting State relating to the taxes which are the subject of this Convention.

第四条

締約国の  
居住者

- 1 この条約の適用上、「一方の締約国の居住者」とは、当該一方の締約国の法令の下において、住所、居所、本店又は主たる事務所の所在地、管理の場所その他これらに類する基準により当該一方の締約国において課税を受けるべきものとされる者という。
- 2 1の規定によつて双方の締約国の居住者となる個人については、権限のある当局は、合意により、この条約の適用上その個人が居住者であるとみなされる締約国を決定する。
- 3 1の規定によつて双方の締約国の居住者となる者で個人以外のものは、その者の本店又は主たる事務所が存在する締約国の居住者とみなす。

第五条

恒久的施  
設

- 1 この条約の適用上、「恒久的施設」とは、事業を行なう一定の場所であつて企業がその事業の全部又は一部を行なつているものをいう。
- 2 「恒久的施設」には、特に、次のものを含む。
  - (a) 管理所
  - (b) 支店
  - (c) 事務所
  - (d) 工場
  - (e) 作業場

Article 4

1. For the purposes of this Convention, the term "resident of a Contracting State" means any person who, under the laws of that Contracting State, is liable to taxation therein by reason of his domicile, residence, place of head or main office, place of management or any other criterion of a similar nature.

2. Where by reason of the provisions of paragraph 1 an individual is a resident of both Contracting States, then the competent authorities shall determine by mutual agreement the Contracting State of which that individual shall be deemed to be a resident for the purposes of this Convention.

3. Where by reason of the provisions of paragraph 1 a person other than an individual is a resident of both Contracting States, then it shall be deemed to be a resident of the Contracting State in which its head or main office is situated.

Article 5

1. For the purposes of this Convention, the term "permanent establishment" means a fixed place of business in which the business of the enterprise is wholly or partly carried on.

2. The term "permanent establishment" shall include especially:

- (a) a place of management;
- (b) a branch;
- (c) an office;
- (d) a factory;
- (e) a workshop;

- (f) 鉱山、採石場その他天然資源を採取する場所  
(g) 建築工事現場又は建設若しくは組立ての工事で、十二箇月をこえる期間存続するもの

3 「恒久的施設」については、次のことは、含まれないものとする。

- (a) 企業に属する物品又は商品の保管、展示又は引渡しのためにのみ施設を使用すること。  
(b) 企業に属する物品又は商品の在庫を保管、展示又は引渡しのためにのみ保有すること。  
(c) 企業に属する物品又は商品の在庫を他の企業による加工のためにのみ保有すること。  
(d) 企業のために物品若しくは商品を購入し又は情報を収集することのみを目的として、事業を行なう一定の場所を保有すること。

(e) 企業のために広告、情報の提供、科学的調査その他これらに類する準備的又は補助的な性質の活動を行なうことを目的として、事業を行なう一定の場所を保有すること。

4 一方の締約国内で他方の締約国の企業に代わつて行動する者（5の規定が適用される独立の地位を有する代理人を除く。）であつて、当該一方の締約国内で、当該企業の名において契約を締結する権限を有し、かつ、これを常習的に行使するものは、当該一方の締約国内の恒久的施設とされる。ただし、

フィンランドとの租税（所得）条約

- (f) a mine, quarry or other place of extraction of natural resources;  
(g) a building site or construction or assembly project which exists for more than twelve months.

3. The term "permanent establishment" shall not be deemed to include:

- (a) the use of facilities solely for the purpose of storage, display or delivery of goods or merchandise belonging to the enterprise;  
(b) the maintenance of a stock of goods or merchandise belonging to the enterprise solely for the purpose of storage, display or delivery;  
(c) the maintenance of a stock of goods or merchandise belonging to the enterprise solely for the purpose of processing by another enterprise;  
(d) the maintenance of a fixed place of business solely for the purpose of purchasing goods or merchandise, or for collecting information, for the enterprise;  
(e) the maintenance of a fixed place of business solely for the purpose of advertising, for the supply of information, for scientific research or for similar activities which have a preparatory or auxiliary character, for the enterprise.

4. A person acting in a Contracting State on behalf of an enterprise of the other Contracting State--other than an agent of an independent status to whom paragraph 5 applies--shall be deemed to be a permanent establishment in the first-mentioned Contracting State if he has, and habitually exercises in that first-mentioned Contracting State, an authority to



その者の行動が当該企業のために物品又は商品を購入することとに限られる場合は、この限りでない。

5 一方の締約国の企業は、仲立人、問屋その他の独立の地位を有する代理人でこれらの者としての業務を通常の方法で行なうものを通じて他方の締約国内で事業活動を行なつてゐるという理由のみでは、当該他方の締約国内に恒久的施設を有するものとされることはない。

6 一方の締約国の居住者である法人が、他方の締約国の居住者である法人若しくは他方の締約国内で恒久的施設を通じ若しくは通じないで事業を行なう法人を支配し、又はこれらに支配されているという事実のみによつては、いずれの一方の法人も、他方の法人の恒久的施設であることとはならない。

## 第六条

不動産に係る所得

1 不動産から生ずる所得に対しては、当該不動産が存在する締約国において租税を課することができる。

2 (a) 「不動産」の定義は、(b)及び(c)の規定に従うことを条件として、当該財産が存在する締約国の法令によるものとする。

(b) 「不動産」には、いかなる場合にも、不動産に附属する財産、農業又は林業に用いられている家畜類及び設備、不動産に関する一般法の規定の適用がある権利、不動産用益権並びに鉱石、水その他の天然資源の採取又は採取の権利の対価として料金（その金額が確定しているかどうかを問

conclude contracts in the name of the enterprise, unless his activities are limited to the purchase of goods or merchandise for the enterprise.

5. An enterprise of a Contracting State shall not be deemed to have a permanent establishment in the other Contracting State merely because it carries on business in that other Contracting State through a broker, general commission agent or any other agent of an independent status, where such persons are acting in the ordinary course of their business.

6. The fact that a company which is a resident of a Contracting State controls or is controlled by a company which is a resident of the other Contracting State, or which carries on business in that other Contracting State (whether through a permanent establishment or otherwise), shall not of itself constitute either company a permanent establishment of the other.

## Article 6

1. Income from immovable property may be taxed in the Contracting State in which such property is situated.

2. (a) The term "immovable property" shall, subject to the provisions of subparagraphs (b) and (c) below, be defined in accordance with the laws of the Contracting State in which the property in question is situated.

(b) The term "immovable property" shall in any case include property accessory to immovable property, livestock and equipment used in agriculture and forestry, rights to which the provisions of general law respecting immovable property apply, usufruct of immovable property and rights to variable or

わなない。)を受け取る権利を含む。

(c) 船舶及び航空機は、不動産とはみなさなす。

3 不動産の所有を目的としかつ不動産を主たる資産とする法人又は協同組合の株式又は持分(当該法人又は協同組合の株式又は持分のすべてが当該法人又は協同組合の所有する不動産又はその一部を占有する権利を法律上与えるものである場合に限り)から生ずる所得(第十条の規定が適用されるものを除く。)に対しては、当該不動産が存在する締約国において租税を課することができる。

4 1の規定は、不動産の直接使用、賃貸その他のすべての形式による使用から生ずる所得について適用する。

5 1及び4の規定は、企業の不動産から生ずる所得及び自由職業を行なうために使用される不動産から生ずる所得についても適用する。

#### 第七条

1 一方の締約国の企業の利得に対しては、その企業が他方の締約国内にある恒久的施設を通じて当該他方の締約国内で事業を行なわなない限り、当該一方の締約国においてのみ租税を課することができる。一方の締約国の企業が他方の締約国内にある恒久的施設を通じて当該他方の締約国内で事業を行なう場合には、その企業の利得のうち当該恒久的施設に帰せられる部分に対してのみ、当該他方の締約国において租税を課

fixed payments as consideration for the working of, or the right to work, mineral deposits, sources and other natural resources.

(c) Ships and aircraft shall not be regarded as immovable property.

3. Subject to the provisions of Article 10, income from shares in a company, including rights in a cooperative society, the purpose of which is to own immovable property and the assets of which consist mainly of such property may be taxed in the Contracting State in which the immovable property is situated, provided that all shares in the company or all rights in the cooperative society legally entitle to the occupation of immovable property or part thereof owned by the company or the cooperative society.

4. The provisions of paragraph 1 shall apply to income derived from the direct use, letting, or use in any other form of immovable property.

5. The provisions of paragraphs 1 and 4 shall also apply to the income from immovable property of an enterprise and to income from immovable property used for the performance of professional services.

#### Article 7

1. The profits of an enterprise of a Contracting State shall be taxable only in that Contracting State unless the enterprise carries on business in the other Contracting State through a permanent establishment situated therein. If the enterprise carries on business as aforesaid, the profits of the enterprise may be taxed in that other Contracting State but only so much of them as is attributable to that permanent establishment.

企業の  
恒久的  
施設は  
利得的  
の施  
設

することができらる。

2 一方の締約国の企業が他方の締約国内にある恒久的施設を通じて当該他方の締約国内で事業を行なう場合には、当該恒久的施設が同一又は類似の条件で同一又は類似の活動を行ない、かつ、当該恒久的施設を有する企業と、全く独立の立場で、取引を行なう別個のかつ分離した企業であるとしたならば、当該恒久的施設が取得したとみられる利得が、各締約国において当該恒久的施設に帰せられるものとする。

3 恒久的施設の利得を決定するにあつては、経営費及び一般管理費を含む費用でその恒久的施設のために生じたものは、その恒久的施設が存在する締約国内で生じたか他の場所において生じたかを問わず、損金に算入することを認められる。

4 2の規定は、恒久的施設に帰せられるべき利得を企業の利得の総額の当該企業の各構成部分への配分によつて決定する慣行が一方の締約国において行なわれている場合には、その締約国が租税を課されるべき利得をその慣行とされている配分の方法によつて決定することを妨げるものではない。ただし、用いられる配分の方法は、その方法によつて得た結果がこの条に定める原則に適合するようなものでなければならぬ。

5 恒久的施設が企業のために行なつた物品又は商品の単なる購入を理由としては、いかなる利得も、その恒久的施設に帰せられることはない。

2. Where an enterprise of a Contracting State carries on business in the other Contracting State through a permanent establishment situated therein, there shall in each Contracting State be attributed to that permanent establishment the profits which it might be expected to make, if it were a distinct and separate enterprise engaged in the same or similar activities under the same or similar conditions and dealing wholly independently with the enterprise of which it is a permanent establishment.

3. In the determination of the profits of a permanent establishment, there shall be allowed as deductions expenses which are incurred for the purposes of the permanent establishment including executive and general administrative expenses so incurred, whether in the Contracting State in which the permanent establishment is situated or elsewhere.

4. Insofar as it has been customary in a Contracting State to determine the profits to be attributed to a permanent establishment on the basis of an apportionment of the total profits of the enterprise to its various parts, nothing in paragraph 2 shall preclude that Contracting State from determining the profits to be taxed by such an apportionment as may be customary; the method of apportionment adopted shall, however, be such that the result shall be in accordance with the principles laid down in this Article.

5. No profits shall be attributed to a permanent establishment by reason of the mere purchase by that permanent establishment of goods or merchandise for the enterprise.

6 1から5までの規定の適用上、恒久的施設に帰せられる利得は、毎年同一の方法によつて決定する。ただし、別の方法を用いることについて正当な理由がある場合は、この限りでない。

7 他の条で別個に取り扱われている種類の所得が企業の利得に含まれる場合には、当該他の条の規定は、この条の規定によつて影響されることはない。

## 第八条

1 一方の締約国の企業が船舶又は航空機を国際運輸に運用することによつて取得する利得に対しては、当該一方の締約国においてのみ租税を課することができる。

2 フィンランドの居住者である企業は、船舶又は航空機を国際運輸に運用することについて、日本国において事業税を免除されるものとし、日本国の居住者である企業は、船舶又は航空機を国際運輸に運用することについて、フィンランドにおいて資本税を免除される。

3 1及び2の規定は、船舶又は航空機を国際運輸に運用する企業がいかなる種類の共同計算、共同経営又は国際経営共同体に参加している場合についても、同様に適用する。

## 第九条

フィンランドとの租税（所得）条約

6. For the purposes of the preceding paragraphs, the profits to be attributed to the permanent establishment shall be determined by the same method year by year unless there is good and sufficient reason to the contrary.

7. Where profits include items of income which are dealt with separately in other Articles of this Convention, then the provisions of those Articles shall not be affected by the provisions of this Article.

## Article 8

1. Profits from the operation of ships or aircraft in international traffic carried on by an enterprise of a Contracting State shall be taxable only in that Contracting State.

2. In respect of the operation of ships or aircraft in international traffic carried on by an enterprise which is a resident of Finland, that enterprise shall be exempt from the enterprise tax in Japan, and in respect of the operation of ships or aircraft in international traffic carried on by an enterprise which is a resident of Japan, that enterprise shall be exempt from the capital tax in Finland.

3. The provisions of paragraphs 1 and 2 shall likewise apply in respect of participations in pools, in a joint business or in international operations agency of any kind by enterprises engaged in the operation of ships or aircraft in international traffic.

## Article 9

Where

特殊関係  
企業に係  
る利得

- (a) 一方の締約国の企業が他方の締約国の企業の経営、支配若しくは資本に直接若しくは間接に参加している場合又は
- (b) 同一の者が一方の締約国の企業及び他方の締約国の企業の経営、支配若しくは資本に直接若しくは間接に参加している場合

であつて、そのいずれの場合においても、双方の企業の間には、その商業上又は資金上の関係において独立の企業の間には設けられる条件と異なる条件が設けられ又は課されているときは、その条件がないとしたならば一方の企業の利得となつたとみられる利得であつてその条件のために当該一方の企業の利得とならなかつたものに対しては、これを当該一方の企業の利得に算入して租税を課することができる。

第十条

配当

- 1 一方の締約国の居住者である法人が他方の締約国の居住者に支払う配当に対しては、当該他方の締約国において租税を課することができる。

2 1の配当に対しては、これを支払う法人が居住者である締約国において、その締約国の法令に従つて租税を課することができる。その租税の額は、次のものをこえないものとする。

- (a) 当該配当の受領者が、利得の分配に係る事業年度の終了に先だつ六箇月の期間を過ぎ、当該配当を支払う法人の議

(a) an enterprise of a Contracting State participates directly or indirectly in the management, control or capital of an enterprise of the other Contracting State, or

(b) the same persons participate directly or indirectly in the management, control or capital of an enterprise of a Contracting State and an enterprise of the other Contracting State,

and in either case conditions are made or imposed between the two enterprises in their commercial or financial relations which differ from those which would be made between independent enterprises, then any profits which would, but for those conditions, have accrued to one of the enterprises, but, by reason of those conditions, have not so accrued, may be included in the profits of that enterprise and taxed accordingly.

Article 10

1. Dividends paid by a company which is a resident of a Contracting State to a resident of the other Contracting State may be taxed in that other Contracting State.

2. However, such dividends may be taxed in the Contracting State of which the company paying the dividends is a resident, and according to the laws of that Contracting State, but the tax so charged shall not exceed:

- (a) 10 per cent of the gross amount of the dividends if the recipient is a company which owns at least 25 per cent of the

決権のある株式の少なくとも二十五パーセントを所有する法人である場合には、当該配当の金額の十パーセント

(b) その他のすべての場合には、当該配当の金額の十五パーセント

この2の規定は、配当に充てられる利得についての当該法人に対する課税に影響を及ぼすものではない。

3 この条において、「配当」とは、株式その他利得の分配を受ける権利（信用に係る債権を除く。）から生ずる所得及びその他の持分から生ずる所得であつて分配を行なう法人が居住者である締約国の税法上株式から生ずる所得と同様に取扱われるものをいう。

4 1及び2の規定は、一方の締約国の居住者である配当の受領者が、その配当を支払う法人が居住者である他方の締約国内にその配当の支払の基因となつた株式その他の持分と実質的に関連する恒久的施設を有する場合には、適用しない。この場合には、第七条の規定を適用する。

5 一方の締約国の居住者である法人が他方の締約国から利得又は所得を取得する場合には、当該他方の締約国は、その法人が当該他方の締約国の居住者でない者に支払う配当及びその法人の留保所得については、これらの配当及び留保所得の全部又は一部が当該他方の締約国内で生じた利得又は所得から成るときも、当該配当に対していかなる租税をも課することができず、また、当該留保所得に対して留保所得税を課することができなく。

voting shares of the company paying such dividends during the period of six months immediately before the end of the accounting period for which the distribution of profits takes place; (b) in all other cases, 15 per cent of the gross amount of the dividends.

This paragraph shall not affect the taxation of the company in respect of the profits out of which the dividends are paid.

3. The term "dividends" as used in this Article means income from shares or other rights, not being debt-claims, participating in profits, as well as income from other corporate rights assimilated to income from shares by the taxation laws of the Contracting State of which the company making the distribution is a resident.

4. The provisions of paragraphs 1 and 2 shall not apply if the recipient of the dividends, being a resident of a Contracting State, has in the other Contracting State, of which the company paying the dividends is a resident, a permanent establishment with which the holding by virtue of which the dividends are paid is effectively connected. In such a case, the provisions of Article 7 shall apply.

5. Where a company which is a resident of a Contracting State derives profits or income from the other Contracting State, that other Contracting State may not impose any tax on the dividends paid by the company to persons who are not residents of that other Contracting State, or subject the company's undistributed profits to a tax on undistributed profits, even if the dividends paid or the undistributed profits consist wholly or partly of profits or income arising in that other Contracting State.

第十一條

Article 11

利子

- 1 一方の締約国内で生じ、他方の締約国の居住者に支払われる利子に対しては、当該他方の締約国において租税を課することができない。
- 2 1の利子に対しては、当該利子が生じた締約国において、その締約国の法令に従つて租税を課することができる。その租税の額は、当該利子の金額の十パーセントをこえないものとする。
- 3 この条において、「利子」とは、公債、債券又は社債（担保の有無及び利得の分配を受ける権利の有無を問わない。）その他のすべての種類の信用に係る債権から生じた所得及びその他の所得でそれが生じた締約国の税法上貸付金から生ずる所得と同様に取り扱われるものをいう。
- 4 1及び2の規定は、一方の締約国の居住者である利子の受領者が、その利子の生じた他方の締約国内にその利子を生じた債権と実質的に関連する恒久的施設を有する場合には、適用しない。この場合には、第七条の規定を適用する。
- 5 利子は、その支払者が一方の締約国又はその公の機関、地方公共団体若しくは居住者である場合には、その締約国内で生じたものとされる。ただし、利子の支払者（一方の締約国

1. Interest arising in a Contracting State and paid to a resident of the other Contracting State may be taxed in that other Contracting State.
2. However, such interest may be taxed in the Contracting State in which it arises, and according to the laws of that Contracting State, but the tax so charged shall not exceed 10 per cent of the gross amount of the interest.
3. The term "interest" as used in this Article means income from Government securities, bonds or debentures, whether or not secured by mortgage and whether or not carrying a right to participate in profits, and debt-claims of every kind as well as all other income assimilated to income from money lent by the taxation laws of the Contracting State in which the income arises.
4. The provisions of paragraphs 1 and 2 shall not apply if the recipient of the interest, being a resident of a Contracting State, has in the other Contracting State in which the interest arises a permanent establishment with which the debt-claim from which the interest arises is effectively connected. In such a case, the provisions of Article 7 shall apply.
5. Interest shall be deemed to arise in a Contracting State when the payer is that Contracting State itself, a public entity, a local authority or a resident of that Contracting State. Where, however, the person paying the interest, whether he is a resident of a

6 居住者であるかどうかを問わない。)が一方の締約国内に恒久的施設を有する場合において、その利子の支払の基因となつた債務が当該恒久的施設について生じ、かつ、その利子を当該恒久的施設が負担するときは、その利子は、当該恒久的施設が存在する当該一方の締約国内で生じたものとされる。

7 支払者と受領者との間又はその双方と第三者との間の特別の関係により、支払われた利子の金額が、その支払の基因となつた債権を考慮する場合において、その関係がないとしたならば支払者及び受領者が合意したとみられる金額をこえるときは、この条の規定は、その合意したとみられる金額についてののみ適用する。この場合には、支払われた金額のうち超過分に対し、この条約の他の規定に妥当な考慮を払つたうえ各締約国の法令に従つて租税を課することができる。

第十二条

1 一方の締約国内で生じ、他方の締約国の居住者に支払われる使用料に対しては、当該他方の締約国において租税を課することができる。

2 1の使用料に対しては、当該使用料が生じた締約国において、その締約国の法令に従つて租税を課することができる。その租税の額は、当該使用料の金額の十パーセントをこえないものとする。

3 この条において、「使用料」とは、文学上、美術上若しくは学術上の著作物(映画フィルムを含む。)の著作権、特許権、

Contracting State or not, has in a Contracting State a permanent establishment in connection with which the indebtedness on which the interest is paid was incurred, and such interest is borne by such permanent establishment, then such interest shall be deemed to arise in the Contracting State in which the permanent establishment is situated.

6. Where, owing to a special relationship between the payer and the recipient or between both of them and some other person, the amount of the interest paid, having regard to the debt-claim for which it is paid, exceeds the amount which would have been agreed upon by the payer and the recipient in the absence of such relationship, the provisions of this Article shall apply only to the last-mentioned amount. In that case, the excess part of the payments shall remain taxable according to the laws of each Contracting State, due regard being had to the other provisions of this Convention.

Article 12

1. Royalties arising in a Contracting State and paid to a resident of the other Contracting State may be taxed in that other Contracting State.

2. However, such royalties may be taxed in the Contracting State in which they arise, and according to the laws of that Contracting State, but the tax so charged shall not exceed 10 per cent of the gross amount of the royalties.

3. The term "royalties" as used in this Article means payments of any kind received as a consideration for the use of, or the



商標権、意匠、模型、図面、秘密方式若しくは秘密工程の使用若しくは使用の権利の対価として、産業上、商業上若しくは学術上の設備の使用若しくは使用の権利の対価として、又は産業上、商業上若しくは学術上の経験に関する情報の対価として受け取るすべての種類の支払金をいう。

4 1及び2の規定は、一方の締約国の居住者である使用料の受領者が、その使用料が生じた他方の締約国内にその使用料を生じた権利又は財産と実質的に関連する恒久的施設を有する場合には、適用しない。この場合には、第七条の規定を適用する。

5 使用料は、その支払者が一方の締約国又はその公の機関、地方公共団体若しくは居住者である場合には、その締約国内で生じたものとされる。ただし、使用料の支払者（一方の締約国の居住者であるかどうかを問わない。）が一方の締約国内に恒久的施設を有する場合において、その使用料を支払う債務が当該恒久的施設について生じ、かつ、その使用料を当該恒久的施設が負担するときは、その使用料は、当該恒久的施設が存在する当該一方の締約国内で生じたものとされる。

6 1、2及び5の規定は、文学上、美術上若しくは学術上の著作物（映画フィルムを含む。）の著作権、特許権、商標権、意匠、模型、図面、秘密方式又は秘密工程の譲渡から生ずる収入についても、同様に適用する。ただし、その収入に係る収益について次条2の規定が適用される場合は、この限りでない。

right to use, any copyright of literary, artistic or scientific work including cinematograph films, any patent, trade mark, design or model, plan, secret formula or process, or for the use of, or the right to use, industrial, commercial or scientific equipment, or for information concerning industrial, commercial or scientific experience.

4. The provisions of paragraphs 1 and 2 shall not apply if the recipient of the royalties, being a resident of a Contracting State, has in the other Contracting State in which the royalties arise a permanent establishment with which the right or property giving rise to the royalties is effectively connected. 7 In such a case, the provisions of Article 7 shall apply.

5. Royalties shall be deemed to arise in a Contracting State when the payer is that Contracting State itself, a public entity, a local authority or a resident of that Contracting State. Where, however, the person paying the royalties, whether he is a resident of a Contracting State or not, has in a Contracting State a permanent establishment in connection with which the liability to pay the royalties was incurred, and such royalties are borne by such permanent establishment, then such royalties shall be deemed to arise in the Contracting State in which the permanent establishment is situated.

6. The provisions of paragraphs 1, 2 and 5 shall likewise apply to proceeds arising from the alienation of any copyright of literary, artistic or scientific work including cinematograph films, any patent, trade mark, design or model, plan, or secret formula or process, except when the provisions of paragraph 2 of Article 13 are applicable to the gains to be derived from such proceeds.

7 支払者と受領者との間又はその双方と第三者との間の特別の關係により、支払われた使用料の金額が、その支払の基因となつた使用、権利又は情報を考慮する場合において、その關係がないとしたならば支払者及び受領者が合意したとみられる金額をこえるときは、この条の規定は、その合意したとみられる金額についてのみ適用する。この場合には、支払われた金額のうち超過分に対し、この条約の他の規定に妥当な考慮を払つたうえ、各締約国の法令に従つて租税を課することができらる。

### 第十三条

1 第六条2(a)及び(b)に定義する不動産の譲渡から生ずる収益に対しては、当該不動産が存在する締約国において租税を課することができる。

2 一方の締約国の企業が他方の締約国内に有する恒久的施設の事業用資産の一部をなす財産（不動産を除く。）又は一方の締約国の居住者が自由職業を行なうため他方の締約国において使用することができる固定的施設に係る財産（不動産を除く。）の譲渡から生ずる収益（単独に若しくは企業全体とともに）に行なわれる当該恒久的施設の譲渡又は当該固定的施設の譲渡から生ずる収益を含む。）に対しては、当該他方の締約国において租税を課することができる。ただし、一方の締約国の居住者が国際運輸に運用する船舶又は航空機及びこれらの船舶又は航空機の運用に係る財産（不動産を除く。）の譲渡によ

7. Where, owing to a special relationship between the payer and the recipient or between both of them and some other person, the amount of the royalties paid, having regard to the use, right or information for which they are paid, exceeds the amount which would have been agreed upon by the payer and the recipient in the absence of such relationship, the provisions of this Article shall apply only to the last-mentioned amount. In that case, the excess part of the payments shall remain taxable according to the laws of each Contracting State, due regard being had to the other provisions of this Convention.

### Article 13

1. Gains from the alienation of immovable property, as defined in sub-paragraphs (a) and (b) of paragraph 2 of Article 6, may be taxed in the Contracting State in which such property is situated.

2. Gains from the alienation of any property, other than immovable property, forming part of the business property of a permanent establishment which an enterprise of a Contracting State has in the other Contracting State or of any property, other than immovable property, pertaining to a fixed base available to a resident of a Contracting State in the other Contracting State for the purpose of performing professional services, including such gains from the alienation of such a permanent establishment (alone or together with the whole enterprise) or of such a fixed base, may be taxed in that other Contracting State. However, gains derived by a resident of a Contracting State from the alienation of ships or aircraft operated in international

つて取得する収益については、他方の締約国の租税を免除する。

3 一方の締約国の居住者が前条 6 並びにこの条の 1 及び 2 に規定する財産以外の財産の譲渡によつて取得する収益については、他方の締約国の租税を免除する。

#### 第十四条

1 一方の締約国の居住者が自由職業その他これに類する独立の活動に関して取得する所得に対しては、その者が自己の活動を遂行するために通常使用することができる固定的施設を他方の締約国内に有しない限り、当該一方の締約国においてのみ租税を課することができる。その者がそのような固定的施設を有する場合には、当該所得のうち当該固定的施設に帰せられる部分に対してのみ、当該他方の締約国において租税を課することができる。

2 「自由職業」には、特に、学術上、文学上、美術上及び教育上の独立の活動並びに医師、弁護士、技術士、建築士、歯科医師及び公認会計士の独立の活動を含む。

#### 第十五条

1 次条及び第十八条から第二十一条までの規定が適用される場合を除くほか、一方の締約国の居住者が勤務について取得

traffic and any property, other than immovable property, pertaining to the operation of such ships or aircraft shall be exempt from tax of the other Contracting State.

3. Gains derived by a resident of a Contracting State from the alienation of any property other than those mentioned in the provisions of paragraph 6 of Article 12 and the preceding paragraphs of this Article shall be exempt from tax of the other Contracting State.

#### Article 14

1. Income derived by a resident of a Contracting State in respect of professional services or other independent activities of a similar character shall be taxable only in that Contracting State unless he has a fixed base regularly available to him in the other Contracting State for the purpose of performing his activities. If he has such a fixed base, the income may be taxed in that other Contracting State but only so much of it as is attributable to that fixed base.

2. The term "professional services" includes, especially, independent scientific, literary, artistic, educational or teaching activities, as well as the independent activities of physicians, lawyers, engineers, architects, dentists and accountants.

#### Article 15

1. Subject to the provisions of Articles 16, 18, 19, 20 and 21, salaries, wages and other similar remuneration derived by a resident of

する給料、賃金その他これらに類する報酬に対しては、その勤務が他方の締約国内で行なわれない限り、当該一方の締約国においてのみ租税を課することができる。勤務が他方の締約国内で行なわれる場合には、その勤務から生ずる報酬に対しては、当該他方の締約国において租税を課することができる。

2 1の規定にかかわらず、一方の締約国の居住者が他方の締約国内で行なう勤務について取得する報酬に対しては、次の(a)から(c)までのことを条件として、当該一方の締約国においてのみ租税を課することができる。

(a) その報酬の受領者が当該年を通じて合計百八十三日をこえない期間当該他方の締約国内に滞在すること。

(b) その報酬が当該他方の締約国の居住者でない雇用者又はこれに代わる者から支払われること。

(c) その報酬が当該他方の締約国内に雇用者の有する恒久的施設又は固定的施設によつて負担されないこと。

3 1及び2の規定にかかわらず、一方の締約国の企業が国際運輸に運用する船舶又は航空機において行なわれる勤務に係る報酬に対しては、当該一方の締約国において租税を課することができる。

## 第十六条

フィンランドとの租税（所得）条約

a Contracting State in respect of an employment shall be taxable only in that Contracting State unless the employment is exercised in the other Contracting State. If the employment is so exercised, such remuneration as is derived therefrom may be taxed in that other Contracting State.

2. Notwithstanding the provisions of paragraph 1, remuneration derived by a resident of a Contracting State in respect of an employment exercised in the other Contracting State shall be taxable only in the first-mentioned Contracting State if:

(a) the recipient is present in that other Contracting State for a period or periods not exceeding in the aggregate 183 days in the calendar year concerned;

(b) the remuneration is paid by, or on behalf of, an employer who is not a resident of that other Contracting State; and

(c) the remuneration is not borne by a permanent establishment or a fixed base which the employer has in that other Contracting State.

3. Notwithstanding the preceding provisions of this Article, remuneration in respect of an employment exercised aboard a ship or aircraft operated in international traffic by an enterprise of a Contracting State may be taxed in that Contracting State.

Article 16

役員の報酬

一方の締約国の居住者が他方の締約国の居住者である法人の役員がこれらの方の資格で取得する報酬に対しては、当該他方の締約国において租税を課することができる。

第十七条

1 第十四条及び第十五条の規定にかかわらず、演劇、映画、ラジオ又はテレビジョンの俳優、音楽家その他の芸能人及び運動家がこれらの者としての個人的活動によつて取得する所得に対しては、その活動が行なわれた締約国において租税を課することができる。

2 この条約のいかなる規定にもかかわらず、1の芸能人又は運動家の役務が一方の締約国内で他方の締約国の企業によつて提供される場合には、当該企業が当該役務の提供によつて取得する利得に対しては、当該一方の締約国において租税を課することができる。

第十八条

退職年金

次条1の規定が適用される場合を除くほか、過去の勤務につき一方の締約国の居住者に支払われる退職年金その他これに類する報酬に対しては、当該一方の締約国においてのみ租税を課することができる。

第十九条

Remuneration derived by a resident of a Contracting State in his capacity as a member of the board of directors of a company which is a resident of the other Contracting State may be taxed in that other Contracting State.

Article 17

1. Notwithstanding the provisions of Articles 14 and 15, income derived by public entertainers, such as theatre, motion picture, radio or television artists, and musicians, and by athletes, from their personal activities as such may be taxed in the Contracting State in which these activities are exercised.

2. Notwithstanding any provisions of this Convention, where the services of a public entertainer or an athlete mentioned in paragraph 1 are provided in a Contracting State by an enterprise of the other Contracting State, the profits derived from providing those services by such enterprise may be taxed in the first-mentioned Contracting State.

Article 18

Subject to the provisions of paragraph 1 of Article 19, pensions and other similar remuneration paid to a resident of a Contracting State in consideration of past employment shall be taxable only in that Contracting State.

Article 19

- 1 政府の職務の遂行として一方の締約国又はその地方公共団体に提供される役務につき、個人に対し、当該一方の締約国若しくはその地方公共団体によつて支払われ、又は当該一方の締約国若しくはその地方公共団体が拠出した基金から支払われる報酬（退職年金を含む。）に対しては、当該一方の締約国において租税を課することができる。そのような報酬の受領者が当該一方の締約国の国民である場合には、その報酬に対し、当該一方の締約国においてのみ租税を課することができる。
- 2 一方の締約国又はその地方公共団体が利得を得る目的で行なう事業に関連して提供される役務につき支払われる報酬又は退職年金については、第十五条から前条までの規定を適用する。
- 3 この条の規定の適用上、「締約国」とは、次のものをもいう。
  - (a) 日本国については、日本国政府が資本の全部を所有する機関及び日本銀行
  - (b) フィンランドについては、政府関係機関、フィンランド銀行及び国民年金機関
- 4 この条の規定の適用は、第一条の規定によつて制限されることはない。

第二十条

フィンランドとの租税（所得）条約

1. Remuneration, including pensions, paid by, or out of funds to which contributions are made by, a Contracting State or a local authority thereof to any individual in respect of services rendered to that Contracting State or local authority in the discharge of functions of a governmental nature may be taxed in that Contracting State. Such remuneration shall be taxable only in that Contracting State if the recipient is a national of that Contracting State.

2. The provisions of Articles 15, 16, 17 and 18 shall apply to remuneration or pensions in respect of services rendered in connection with any business carried on by a Contracting State or a local authority thereof for the purpose of profits.

3. For the purposes of this Article, the term "Contracting State" includes:

(a) in respect of Japan: any organisation the capital of which is wholly owned by the Government of Japan and the Bank of Japan;

(b) in respect of Finland: any organisation or institution of a governmental nature, the Bank of Finland and the National Pensions Institute.

4. The application of the provisions of this Article shall not be limited by the provisions of Article 1.

Article 20

教育又は  
研究に係  
る報酬

1 大学、学校その他の教育機関において教育又は研究を行なうため一方の締約国を訪れ、二年をこえない期間一時的に滞在する教授又は教員であつて、現に他方の締約国の居住者であり、又は訪れる直前に他方の締約国の居住者であつたものに対しては、その教育又は研究に係る報酬につき、当該他方の締約国においてのみ租税を課することができる。

2 1の規定は、主として特定の者の私的利益のために行なわれる研究から生ずる所得については、適用しない。

第二十一条

学生又は  
事業修習  
者への給  
付金

もつばら教育又は訓練を受けるため一方の締約国内に滞在する学生又は事業修習者であつて、現に他方の締約国の居住者であり、又はその滞在の直前に他方の締約国の居住者であつたものがその生計、教育又は訓練のために受け取る給付又は所得については、当該一方の締約国の租税を免除する。ただし、給付については、それが当該一方の締約国外から支払われるものである場合に限り、それが当該一方の締約国内で提供される人的役務について受け取るものであつて、年間二千アメリカ合衆国ドル又は日本円若しくはフィンランド・マルカによるその相当額をこえないものである場合に限り。

第二十二条

1. A professor or teacher who makes a temporary visit to a Contracting State for a period not exceeding two years for the purpose of teaching or conducting research at a university, college, school or other educational institution, and who is, or immediately before such visit was, a resident of the other Contracting State shall be taxable only in that other Contracting State in respect of remuneration for such teaching or research.

2. The provisions of paragraph 1 shall not apply to income from research if such research is undertaken primarily for the private benefit of a specific person or persons.

Article 21

Payments or income received for the purpose of his maintenance, education or training by a student or business apprentice who is present in a Contracting State solely for the purpose of his education or training and who is, or immediately before being so present was, a resident of the other Contracting State shall be exempt from tax of the first-mentioned Contracting State, provided that such payments are made to him from outside that first-mentioned Contracting State or that such income is received in respect of his personal services performed in that first-mentioned Contracting State in an amount not in excess of 2,000 United States dollars or its equivalent in Japanese yen or Finnish markkas during any calendar year.

Article 22

一方の締約国の居住者の所得で前諸条に明文の規定がないものに對しては、当該一方の締約国においてのみ租税を課することができらる。

第二十三条

1 フィンランド内で生ずる所得について納付されるフィンランドの租税は、日本国以外の国において納付される租税を日本国の租税から控除することに関する日本国の法令に従い、その所得について納付される日本国の租税から控除する。その控除を行なうにあたり、その所得が、フィンランドの居住者である法人がその議決権のある株式又はその発行した全株式の少なくとも二十五パーセントを所有する日本国の居住者である法人に對して支払う配当である場合には、フィンランドの居住者である当該法人がその所得について納付するフィンランドの租税を考慮に入れる。

2 フィンランドの居住者がこの条約の規定に従つて日本国において租税を課される所得を取得するときは、フィンランドは、3の規定が適用される場合を除くほか、所得に對する租税のうち日本国内で生ずる所得に對応する部分を所得に對する租税から控除する。

3 フィンランドの居住者が第十条から第十二条までの規定に従つて日本国において租税を課される所得を取得する場合には、フィンランドは、日本国において納付される租税の額と等しい額をその者の所得に對する租税から控除する。ただし

Items of income of a resident of a Contracting State which are not expressly mentioned in the foregoing Articles of this Convention shall be taxable only in that Contracting State.

Article 23

1. Subject to the laws of Japan regarding the allowance as a credit against Japanese tax of tax payable in any country other than Japan, Finnish tax payable in respect of income derived from Finland shall be allowed as a credit against Japanese tax payable in respect of that income. Where such income is a dividend paid by a company resident in Finland to a company resident in Japan which owns not less than 25 per cent either of the voting shares of the company paying the dividend or of the total shares issued by that company, the credit shall take into account Finnish tax payable by that company in respect of its income.

2. Where a resident of Finland derives income which, in accordance with the provisions of this Convention, may be taxed in Japan, Finland shall, subject to the provisions of paragraph 3, allow as a deduction from the tax on income that part of the tax on income which is appropriate to the income derived from Japan.

3. Where a resident of Finland derives income which, in accordance with the provisions of Articles 10, 11 and 12 may be taxed in Japan, Finland shall allow as a deduction from the tax on the income of that person an amount equal to the tax paid in Japan. Such deduction shall not, however, exceed that part of



その控除の額は、その控除が行なわれる前に算定された租税の額のうち日本国内で生ずる所得に対応する部分をこえないものとする。

4 3の規定にかかわらず、日本国の居住者である法人がフィンランドの居住者である法人に支払う配当は、支払者及び受領者の双方がフィンランドの居住者であるとしたならばフィンランドの税法上免除されたとみられる範囲内でフィンランドの租税を免除される。

第二十四条

1 一方の締約国の国民は、他方の締約国において、同様の状況にある当該他方の締約国の国民が課されており又は課されることがある租税又はこれに関連する要件以外の又はこれらよりも重い租税又はこれに関連する要件を課されることはな

2 一方の締約国の企業が他方の締約国内に有する恒久的施設に対する租税は、当該他方の締約国において、同様の活動を行なう当該他方の締約国の企業に対して課される租税よりも不利に課されることはない。

この規定は、一方の締約国に対し、家族の状況又は家族を扶養するための負担を理由として自国の居住者に認める租税上の人的控除、救済及び軽減を他方の締約国の居住者に認めることを義務づけるものと解してはならない。

the tax, as computed before the deduction is given, which is appropriate to the income derived from Japan.

4. Notwithstanding the provisions of paragraph 3, dividends paid by a company which is a resident of Japan to a company which is a resident of Finland shall be exempt from Finnish tax to the extent as would have been the case under Finnish taxation laws if both the payer and the recipient had been residents of Finland.

Article 24

1. The nationals of a Contracting State shall not be subjected in the other Contracting State to any taxation or any requirement connected therewith which is other or more burdensome than the taxation and connected requirements to which nationals of that other Contracting State in the same circumstances are or may be subjected.

2. The taxation on a permanent establishment which an enterprise of a Contracting State has in the other Contracting State shall not be less favourably levied in that other Contracting State than the taxation levied on enterprises of that other Contracting State carrying on the same activities.

This provision shall not be construed as obliging a Contracting State to grant to residents of the other Contracting State any personal allowances, reliefs and reductions for taxation purposes on account of civil status or family responsibilities which it grants to its own residents.

- 3 一方の締約国の企業であつてその資本の全部又は一部が他方の締約国の一又は二以上の居住者により直接又は間接に所有され又は支配されているものは、当該一方の締約国において、当該一方の締約国の類似の他の企業が課されており又は課されることがある租税又はこれに関連する要件以外の又はこれらよりも重い租税又はこれに関連する要件を課されることとはなし。
- 4 この条において、「租税」とは、すべての種類の税をさう。
- 5 この条の規定の適用は、第一条の規定によつて制限されることはなし。

## 第二十五条

- 1 一方の締約国の居住者は、いずれか一方の又は双方の締約国の措置によりこの条約に適合しない課税を受け又は受けるに至ると認める場合には、それらの締約国の法令で定める救済手段とは別に、自己が居住者である締約国の権限のある当局に対しその事案について申立てをすることができらる。
- 2 権限のある当局は、1の申立てを正当と認めるが、適当な解決を与えることができない場合には、この条約に適合しない課税を回避するため、他方の締約国の権限のある当局との合意によつてその事案を解決するように努める。

3. Enterprises of a Contracting State, the capital of which is wholly or partly owned or controlled, directly or indirectly, by one or more residents of the other Contracting State, shall not be subjected in the first-mentioned Contracting State to any taxation or any requirement connected therewith which is other or more burdensome than the taxation and connected requirements to which other similar enterprises of that first-mentioned Contracting State are or may be subjected.
4. In this Article the term "taxation" means taxes of every kind and description.
5. The application of the provisions of this Article shall not be limited by the provisions of Article 1.

## Article 25

1. Where a resident of a Contracting State considers that the actions of one or both of the Contracting States result or will result for him in taxation not in accordance with this Convention, he may, notwithstanding the remedies provided by the laws of those Contracting States, present his case to the competent authority of the Contracting State of which he is a resident.
2. The competent authority shall endeavour, if the objection appears to it to be justified and if it is not itself able to arrive at an appropriate solution, to resolve that case by mutual agreement with the competent authority of the other Contracting State, with a view to the avoidance of taxation not in accordance with this Convention.

- 3 両締約国の権限のある当局は、この条約の解釈又は適用に關して生ずる困難又は疑義を合意によつて解決するように努める。両締約国の権限のある当局は、また、この条約に定めのない場合における二重課税を除去するため、相互に協議することができる。
- 4 両締約国の権限のある当局は、2及び3の合意に達するため、直接相互に通信することができる。

第二十六条

情報交換

- 1 両締約国の権限のある当局は、この条約及びこの条約が適用される租税に關する両締約国の国内法令（当該国内法令に基づく課税がこの条約に適合する場合に限る。）を実施するために必要な情報を交換する。このようにして交換された情報は、秘密として取り扱うものとし、この条約の対象である租税の賦課及び徴収に關与する者（当局を含む。）以外のいかなる者（当局を含む。）にも開示してはならない。
- 2 1の規定は、いかなる場合にも、一方の締約国に対し、次のことを行なう義務を課するものと解してはならない。
- (a) 当該一方の締約国又は他方の締約国の法令又は行政上の慣行に抵触する行政上の措置をとること。
- (b) 当該一方の締約国又は他方の締約国の法令の下において又は行政の通常の運営において入手することができない資料

3. The competent authorities of the Contracting States shall endeavour to resolve by mutual agreement any difficulties or doubts arising as to the interpretation or application of this Convention. They may also consult together for the elimination of double taxation in cases not provided for in this Convention.
4. The competent authorities of the Contracting States may communicate with each other directly for the purpose of reaching an agreement in the sense of the preceding paragraphs.

Article 26

1. The competent authorities of the Contracting States shall exchange such information as is necessary for the carrying out of this Convention and of the domestic laws of the Contracting States concerning taxes covered by this Convention insofar as the taxation thereunder is in accordance with this Convention. Any information so exchanged shall be treated as secret and shall not be disclosed to any persons or authorities other than those concerned with the assessment or collection of the taxes which are the subject of this Convention.
2. In no case shall the provisions of paragraph 1 be construed so as to impose on a Contracting State the obligation:
- (a) to carry out administrative measures at variance with the laws or the administrative practice of that or of the other Contracting State;
- (b) to supply particulars which are not obtainable under the laws or in the normal course of the administration

料を提供すること。

(c) 営業上、事業上、産業上、商業上若しくは職業上の秘密若しくは取引の過程を明らかにするような情報又は公開することが公の秩序に反するような情報を提供すること。

## 第二十七条

1 各締約国は、この条約に基づいて他方の締約国の認める租税の免除又は税率の軽減が、このような特典を受ける権利を有しない者によつて享受されることのないようにするため、当該他方の締約国が課する租税を徴取するように努める。その徴取を行なう締約国は、このようにして徴取された金額につき他方の締約国に対して責任を負う。

2 1の規定は、いかなる場合にも、いずれの締約国に対しても、租税の徴取に努める締約国の規則及び慣行に抵触し又はその締約国の公の秩序に反するような行政上の措置をとる義務を課するものと解してはならない。

## 第二十八条

この条約のいかなる規定も、国際法の一般原則又は特別の協定に基づく外交官又は領事官の租税上の特権に影響を及ぼすものではない。

外交官及  
領事官  
の特権

## 第二十九条

フィンランドとの租税（所得）条約

of that or of the other Contracting State; or

(c) to supply information which would disclose any trade, business, industrial, commercial or professional secret or trade process, or information, the disclosure of which would be contrary to public policy.

## Article 27

1. Each of the Contracting States shall endeavour to collect such taxes imposed by the other Contracting State as will ensure that any exemption or reduced rate of tax granted under this Convention by that other Contracting State shall not be enjoyed by persons not entitled to such benefits. The Contracting State making such collections shall be responsible to the other Contracting State for the sums thus collected.

2. In no case shall the provisions of paragraph 1 be construed so as to impose upon either of the Contracting States the obligation to carry out administrative measures at variance with the regulations and practices of the Contracting State endeavouring to collect the tax or which would be contrary to the public policy of that Contracting State.

## Article 28

Nothing in this Convention shall affect the fiscal privileges of diplomatic or consular officials under the general rules of international law or under the provisions of special agreements.

## Article 29

批准、効力発生及び適用の開始

- 1 この条約は、批准されなければならない。批准書は、できる限りすみやかに東京で交換されるものとする。
- 2 この条約は、批准書の交換の日の後三十日目の日に効力を生ずるものとし、双方の締約国において、この条約が効力を生ずる年の一月一日以後に開始する各課税年度の所得について適用する。

第三十条

条約の終了及び適用の時期

この条約は、無期限に効力を有する。ただし、いずれの一方の締約国も、この条約の効力発生の日から五年の期間が満了した後開始する各年の六月三十日以前に、外交上の経路を通じて他方の締約国に対し書面による終了の通告を行なうことができる。この場合には、この条約は、双方の締約国において、その通告が行なわれた年の翌年の一月一日以後に開始する各課税年度の所得について効力を失う。

末文

以上の証拠として、下名は、各自の政府から正当に委任を受けて、この条約に署名した。

千九百七十二年二月二十九日にヘルシンキで、英語により本書二通を作成した。

1. This Convention shall be ratified and the instruments of ratification shall be exchanged at Tokyo as soon as possible.

2. This Convention shall enter into force on the thirtieth day after the date of the exchange of instruments of ratification and shall be applicable in both Contracting States as respects income for any taxable year beginning on or after the first day of January in the calendar year in which this Convention enters into force.

Article 30

This Convention shall continue in effect indefinitely but either of the Contracting States may, on or before the thirtieth day of June in any calendar year beginning after the expiration of a period of five years from the date of its entry into force, give to the other Contracting State, through the diplomatic channel, written notice of termination and, in such event, this Convention shall cease to be effective in both Contracting States as respects income for any taxable year beginning on or after the first day of January in the calendar year next following that in which the notice is given.

IN WITNESS WHEREOF the undersigned, being duly authorised thereto by their respective Governments, have signed this Convention.

DONE in duplicate at Helsinki on the twenty-ninth day of February, 1972 in the English language.

---

日本国のために

飯村繁

フィンランド共和国のために

リチャード・テッテルマン

---

For Japan:

SHIGERU IMURA

For the Republic of  
Finland:

RICHARD TOTTERMAN